



←排水対策を強化するため、再度畑を耕して、大きく溝を切って再度蒔き直し。

※段階的に収穫するため、播種する順番も考えながら、圃場の準備をおこなっている。

水害に強い圃場にするために、今年は試験的にレーザーレベラー(圃場を平らにして傾斜を作り水捌けを良くする)を使った整地の試験をおこなう予定。





←発芽したばかりの小さい間は、根も短いため雨が降らずに圃場表面が乾いていると、土の中から自分で水を吸い上げることができない。

⇒枯れてしまわないように、畑灌(畑の水道)にチューブをつないで散水をおこなう。

マイナス日が続く予報が出ているときは、パオパオ(被覆資材)を圃場にかけて、直接霜の被害を受けないようにする。
(強い風が吹く場合は作業が大変・・・)



フィールドコーディネーターによる栽培工程管理



- ・2名のフィールドコーディネーターが圃場を巡回し栽培状況を確認⇒圃場準備から収穫まで、計画していた工程通りに進んでいるかをチェックして、生産者と日々の調整をおこなっている。



- ・巡回をしながら圃場の状況(発芽率、草丈、病気や害虫の発生)などの情報をタブレットで記録。
⇒情報は関係者で共有し、生育予測や収穫順番の調整などにも活用している。



3.現状の課題と今後の対応

原料の安定供給のための課題

- 高齢化や安定した収量確保が難しいことで離農者が増える中、
工場の年間稼働に必要な原料(生産基盤)をどう維持していくか
- ◎集中豪雨、干ばつ、急激な気温低下、温暖化、長雨などの
気候変動にどのように対応していくか(異常気象が当たり前に)
- 原料調達に必要なコスト(原料仕入価格、運賃、保管料、作業委託費など)の上昇をどのように抑制していくか(省力化・効率化)

高品質の原料を供給するために

○令和5年2月の状況

- ・本来であれば、数量も品質も年間で最も安定している時期。
- ・年内の軟弱徒長と病気発生、1月下旬の大寒波の影響で圃場全体が大きく被害を受けた。2月中、メイン品目ほうれん草の製造ができない状況に。

⇒病気や気候変化に強い圃場
および原料づくりが必要。

